

緊急時の対応マニュアル

株式会社 福 老

サービス実施中に利用者が病変や救援、またはその他緊急事態が発生した場合の対応及び留意事項についてのマニュアル。

1 緊急時の気構え

緊急事態が発生した場合、すばやい判断と適切な処置がそのまま利用者の救助につながる。従って、適切な判断・適切な処置が出来るよう、まずは自分自身を落ち着かせ、出来るだけ冷静になる事が大切である。

また、周囲に他の職員がいない場合を除き、必ず複数のスタッフで対応する。

2 緊急時の対応

(1) 本人からの体調不良の訴え・もしくはスタッフの所見でおかしいと判断した場合

- ア、 安静体位の保持（衣類を緩め、十分な呼吸を確保する）
- イ、 バイタル（体温・血圧・脈拍）の測定
- ウ、 一般状態（顔色・意識状態・爪色・全身状態）の観察
- エ、 家族への連絡

(2) 突然の転倒（痙攣・てんかん発作等）の場合

⇒呼吸の有無の確認

「呼吸がある場合」

- ア、 呼びかけ・反応を確認（この際、身体を揺らす等の衝撃を与えない事。痙攣を起こした者には舌をかまないように注意する事。てんかん者の場合には過剰な呼びかけはしない事。）
- イ、 安静体位の保持（衣類を緩め、十分な呼吸の確保）
- オ、 バイタル（体温・血圧・脈拍）の測定
- カ、 一般状態（顔色・意識状態・爪色・全身状態）の観察
- キ、 家族へ連絡

「呼吸がない場合」

- ア、 救急車を呼ぶ（119番）
- イ、 家族へ連絡（一人で対応している時は利用者の処置を優先する。）

- ウ、 気道の確保（義歯の除去・口腔内の異物の有無の確認をする）
- エ、 救急車到着（職員 1 名付き添い）

3、具体的な処置方法

- ・ ショック状態、血圧低下の場合⇒下肢の挙上
- ・ 嘔吐時⇒顔を横に向ける
- ・ 出血がある時⇒圧迫する

2010年7月16日